

(独立行政法人教職員支援機構委託事業)

教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業

実施報告書

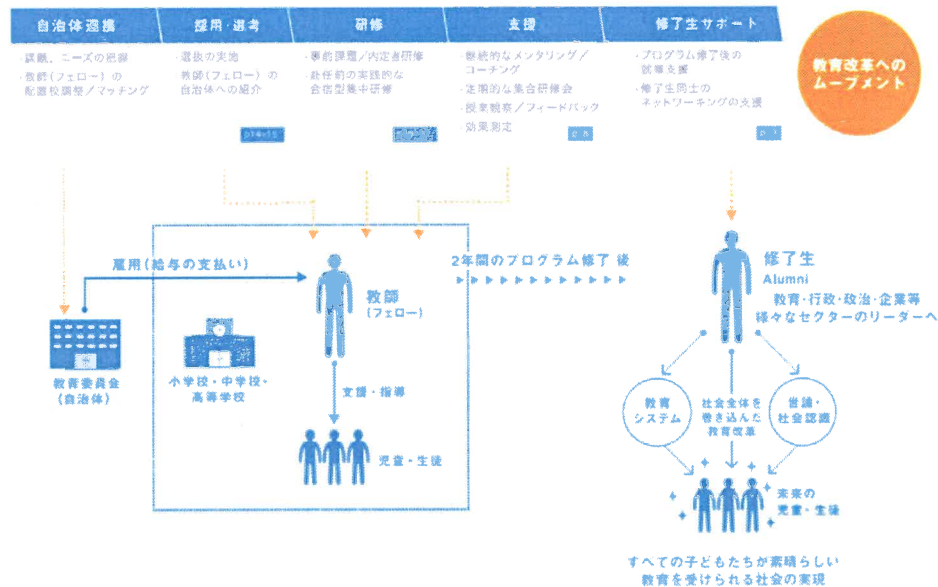
プログラム名	教員研修モデルカリキュラム開発プログラムに係る研修の実施及び連絡調整に関する業務
プログラムの特徴	本プログラムでは、子どもと向き合う上で効果的な教員の能力を定義・体系化し、客観的・一貫性のある評価基準/教員の資質能力向上フレームワーク(教員支援ルーブリック)を開発し、ルーブリックを用いた研修や支援を行う。平成28年度事業にてルーブリックの初版を作成しており、平成29年度事業ではこちらを改良し運用した。このルーブリックを活用することにより、教師は日々自己研鑽に励むことができ、厳しい状況にいる子ども達の学習環境を改善することが期待される。教員/指導/教室/教育の質を向上させることにより、最終的に子ども達の学力/学習意欲の向上を実現する。

平成30年3月

機関名 認定特定非営利活動法人Teach For Japan

プログラムの全体概要

Teach For Japan は既存の教職員採用とは異なるルート(当法人が独自に採用選抜した人材を教育委員会に常勤講師としてご紹介)で現場に立つ教職員の質が担保されるように、採用基準を確立し、現場に入る事前研修と現場に入ってからからの指導力支援を提供している。



本プログラムでは、現場に入ってから教員のモチベーションが持続し、かつ成長し続けられるように、教員支援ルーブリックの改良を行う。またルーブリックを活用した面談支援や授業のフィードバックの仕組みを運用し、プログラムの効果を測定する。

I 開発の目的・内容・組織

1.開発目的

日本では6人に1人の子どもが貧困状態にあり、家庭の年収と学力は大きな相関がある。貧困が教育格差を生み出し、教育格差が社会経済格差とつながる「貧困の連鎖」が大きな課題として日本には存在する。本来公教育がこの子ども達の自立をサポートする役割を担っていかないといけないところ、学校現場も多くの課題を抱えており、子ども達に十分なサポートをすることができていない。その中で大きな課題なのが、教員の養成/サポートの仕組の不在である。既存の教員に対する教員研修プログラムは、現場のニーズを十分には満たしておらず、教員の自己研鑽の場やツールがないことが課題として挙げられる。

本プログラムでは、子どもと向き合う上で効果的な教員の能力を定義・体系化し、客観的・一貫性のある評価基準/教員の資質能力向上フレームワーク(教員支援ルーブリック)を開発する。平成28年度事業に初版を作成しており、平成29年度事業ではこちらを改良、運用していく計画である。このルーブリックを活用することにより、教師は日々自己研鑽に励むことができ、厳しい状況にいる子ども達の学習環境を改善することが期待される。教員/指導/教室/教育の質を向上させることにより、最終的に子ども達の学力/学習意欲の向上を実現する。

2.開発の内容

(1) 対象者

採用選考を通過した人材が研修の対象になる。採用基準は以下に示す通りであり、非常に厳密に運用されているものの、それを満たせば年齢や経歴に大きな縛りは設けていない。

【採用基準】

採用時点で候補者が備えているべき「能力」と「性格的資質」をそれぞれ体系化し、採用基準として使用している。「能力」については、人間としての「基礎力」・教員としての「指導力」・適切な自己認識に基づく「成長力」の3つに大分類し、さらにそれを細分化した合計9つの要素を採用基準として規定している。また、性格的資質については「目的志向型」「思考重視型」「共感重視型」の3つに分類し、バランスよく候補者を学校へ紹介できるよう採用基準に組み込んでいる。

【研修対象者数】

今年度の対象者は23名を予定している

【年齢】

例年20代中盤から30代中盤までがボリュームゾーンであるが、上述のように採用基準を満たすか否かが研修の対象になるかの決定要因であるため、例年幅広い年代の対象者が存在する。

【経歴】

大学卒を含む多様なバックグラウンドを持つ人材を研修対象としているものの、採用基準を満たす必要があるため、例年社会人経験3年以上の候補者が多い。

(2) プログラム普及のための具体的施策

教員支援ルーブリックの開発・運用

・ ルーブリックとは、それぞれの能力レベルにおける基本的な評価基準を明示するものであり、教員に求められている能力のレベルを、下位到達レベルから、より洗練された上位の到達レベルへと漸次的に示すものである。

・ ルーブリックは、自分の教員としての能力を客観的に評価することが可能になるだけでなく、予め到達目標や評価の観点・基準を意識することが可能となることにも、大きな利点があると言える。到達目標を明確に設定し、目標の実現に向けて具体性をもった最適な取り組みを実施していくことが、主体的な学びとなり、結果として自己成長へと繋がる。また、一貫した基準があることにより、各教員の能力レベルを簡易に把握することができるようになり、それゆえに、教員への助言や支援の論点も明確になる。

・ 平成28年度に初版を作成しており、平成29年度は作成したものを運用し、運用を通して得られる情報を基に改良作業を行う。また、授業見学や追加の情報収集を通してルーブリックの詳細化作業を行うとともに、ルーブリックの精度を高めていく。追加の情報はヒアリングやアンケート調査、映像データの収集を計画している。

ルーブリックの構成

・ 教師の行動特性を約6つの特性に分類し、各特性の到達レベルを「レベル1Pre-Novice」「レベル2Novice」「レベル3Beginning Proficiency」「レベル4Advanced Proficiency」「レベル5Exemplary」の五段階で評価する。

・ 各レベル(項目)の内訳には、その項目の説明、行動例の描写、行動を実際に表している複数の動画やグッドプラクティス、次のレベルにいくための助言、参考資料が内包されている。

ルーブリックの開発プロセス

「委員会の構成」

・ プロトタイプ開発

弊団体ネットワーク団体である Teach For All(<http://www.teachforall.org/en>)のツールである、Teaching As Leadership Comprehensive Rubric(以下、TAL ルーブリック)を活用し、上記インプットを基に日本の学校現場の実情にあったルーブリックプロトタイプを開発する。

※参考:Teach For All は、多数の業界の専門家などの知見を活かし、目標設定力や自学自習力、問題解決力などの教員に必要とされるコンピテンシーを作成し、独自の教員養成方法を編み出している。

・ 情報収集

開発したプロトタイプに、国内の困難校で勤務する教員の授業記録映像や付随する指導案を蓄積し、ルーブリックの精度を上げる。(※さらに、ルーブリック内の各項目がどのレベルの指導を展開するものなのかを可視化するため、ルーブリックと蓄積している映像情報をリンクさせ、ルーブリック使用者の利便性を上げる。)29年度は Teach For Japan フェロー23名がルーブリック設計に携わることを予定している。

各ルーブリック項目を、ルーブリック活用者がよりイメージできるようにケースを取りまとめ、各項目に紐づけていく。ケースは現場で指導しているフェローが実際に体験したことや、直面した課題、乗り越え方をヒアリングし、取りまとめていく。

※フェローとは:TFJが採用・育成している教師のことで、全国の小学校・中学校で勤務している。フェローシッププログラムは二年間と定められている。

※29年度にフェローが配置されている地区(情報収集対象地区) 埼玉県戸田市、福岡県福岡市、福岡県北九州市、福岡県飯塚市、福岡県田川市、福岡県川崎町、福岡県福智町

・運用

現場での導入が開始されると、プロジェクトチームは現場での運用をサポートする。定期的に面談や授業観察後のフィードバックを実施し、ルーブリックが教員の指導力改善や自己研鑽に生かされるようにサポートする。試運用は連携している教育委員会(埼玉県戸田市、福岡県福岡市、福岡県北九州市、福岡県飯塚市、福岡県田川市、福岡県川崎町、福岡県福智町)で実施予定。

「研修会の実施」

ルーブリックを効果的に運用できるように、使用者とファシリテーター用のマニュアルを開発する。また本ルーブリック完成後、必要としている教育委員会にはルーブリックを提供も視野に入れ、一人でも多くの教員が自己研鑽できる仕組みとして開発する。

・ルーブリック導入研修会/改善研修会を実施。現場で勤務している教員(TFJフェロー)が、ルーブリックを現場で活用するための導入研修会を実施する。

・ルーブリックをより効果的に実施するための定期集合研修会を実施する。なお、研修会には適宜特別検討委員会に参加しているアドバイザーや外部有識者なども講師・観察者として参加する。

3 開発組織

NO	所属・役職	氏名	担当・役割
1	CEO	白田直也	全体責任者
2	採用選考マネージャー	森崎昇	採用活動担当
3	研修開発・教師支援マネージャー	山田育子・不破真理子	研修プログラムの開発・実施
4	効果測定マネージャー	中島悠生	プログラムの効果測定と結果分析
5	事務局	丸山千夏・高野雅子	経費管理等を含む事務局

II 開発の実績とその成果

1. ルーブリックプロトタイプの開発 別添「ルーブリック」を参照。プロトタイプを完成させ、運用を開始した。
2. 運用 現場に派遣している各フェローに対して、月一回のメンタリング対面面談やオンライン面談を実施している。このメンタリング面談を通して、フェローの目標設定を明確にし、目標に対する進捗状況を確認していく。また、定期的に授業改善のフィードバックを実施し、フェローの学び続ける姿勢をサポートする。時には、現場の出来事の整理を一緒に行い、フェローがバーンアウトしないように課題解決をサポートしていった。
3. 研修会 年に4日間、赴任後研修を実施した。赴任後研修ではルーブリックを軸に内容を構築する。ニーズベースで研修を設計することで、フェローが現場ですぐに生かせる、実践的な研修を構築することを可能としている。

内容については下記の通りである。

【夏期研修会】 日程：2017年7月29日（土）、7月30日（日）
参加人数：25名（昨年ルーブリック活用していた教員4名を含む）

事前準備：

7/29 生徒・地域インパクトセッションの準備に関する事前課題

29日終日の研修では、地域チーム（関東・北福岡（福岡市・北九州市）・筑豊）に分かれ、地域教育に関する課題・ビジョンの策定を行います。皆さんの貴重な実践から生まれる課題意識だけでなく、児童生徒や保護者ならびに地域施策からも振り返って課題とビジョン・戦略を特定することを重要視しています。また冬季研修を中間発表、2018年SIを最終発表と位置付け、課題探究→実践のサイクルを回していきます。なお30日は、終日授業力向上研修を実施いたします。上記実施にあたり、下記の1-3の課題にお取り組みください。

1. 児童生徒アンケート・保護者様からの声の回収：1時間程度	☆ 事前課題： 1. （必須）今までの取り組みの中で、児童生徒からの「先生にこんな授業をしてほしい」「学校でこんなことができるとよい」という希望についてのアンケート等を、29日のワークで活用します。具体的には児童生徒の記述を参照・共有いただきますので、共有できるようにご準備ください（アンケート持参のほか、写メやPDFで保管するなど）。もし上記のようなものを現状で取られていない場合には、下記リンク先を活用するなどしてぜひ夏休み前に児童生徒の声を準備いただくようお願いいたします 2. （必須）学校管理職等とのコミュニケーションの中で、「先生（フェロー）にこんな授業をしてほしい」「学校でこんなことができるとよい」というコメントやフィードバックをいただいたことはありますか。こちら適宜参照・共有いただきますので、共有できるようにご準備ください（メモ等を持参するなど） 3. （任意）<u>またもし保護者様からの教育や授業に関する希望やフィードバックなどを得た取り組みがある場合には</u>、上記と同じく記述を参照
---------------------------------------	---

	できるようご準備ください 参考（例）： ・学級アンケート（低学年） https://docs.google.com/document/d/1WuAkOXzniXCbFVtrzcVXq-7wpsoQwo_HKYE6LvkHjA/edit ・学級アンケート（中～高学年） https://docs.google.com/document/d/1CdjuIr9tEjg4U7X-D57idn6B8ClgfnzzO_e_r1cAWCo/edit
2. ビデオ鑑賞 ：20-30分程度	<7/29 生徒・地域インパクトセッションの準備> ☆ 事前課題：以下のビデオのいずれかを見た上で、質問について考えてください。 <u>オプション① 社会経済的格差に興味のある人向け（全編英語）</u> （約20分）※ Teach for Indiaの2014年フェローの教室ビデオです Classroom Tour https://www.youtube.com/watch?v=8upqGliY0h0 Student Interview https://www.youtube.com/watch?v=pFM3tuuQi5w Fellow Interview https://www.youtube.com/watch?v=odXh-Wq56r0 ★質問 この教室で起きたと思われる生徒の変化は、一言でいうとどのようなものだと思いますか。また、その変化を促すために、この教師は生徒たちに対し、どのようなマインドセットで接し、またどのような働きかけを教室の中で日々してきたと思いますか（ビデオの中にはその”過程”の話はあまり出てきませんので、できる限り想像してみてください）。 <u>オプション② 特別支援やユニバーサルな教育に興味のある人向け（※ 2016年課題と同じ）</u> 「障害と豊かな人生」（約20分） （アショカ・フェローの講演ビデオで、2つに分かれています） https://www.youtube.com/watch?v=aAfURade-FI&index=1&list=PLeqOLUj_FV7p_NvXflGqYpwq3Hzo8qiZe https://www.youtube.com/watch?v=vY9yl400_Zc&index=2&list=PLeqOLUj_FV7p_NvXflGqYpwq3Hzo8qiZe ★質問 この講演の中で、「フル・ライフ」という言葉が出てきます（タイトル字幕では「豊かな人生」と訳されていますが、「満ち足りた人生」という言い方もできるかと思います）。ご自身にとって、「フル・ライフ」とはどのようなもの/どのような意味をもつものですか。ご自身の教室の子どもたちが「フル・ライフ」を得るために、教師としてご自身ができることは何だと思いますか。
3. ご自身の取組に関する振り返り ：2時間程度	<7/29 生徒・地域インパクトセッションの準備> ☆ 事前課題： 今年度（2017年4-6月）の取り組みについて、自身のビジョンとビジョンに照らした生徒の成長について、グループ内での発表を行います（1人15分程度）。なお4期生は、1年目の取り組みで効果のあったものについての発表でもかまいません。可能な範囲で、エピソードとともに児童生徒の成長に関する具体的・統計的なデータを示してください。お忙しいと思いますが、簡単なプレゼン資料（5-10ページ程度）の作成を推奨いたします

・参考：

■ Pune（インド）における地域ビジョン

” In ten years from now, all of our students will be preparing to enter college and study a subject of their choice. They will be independent and rational thinkers striving towards excellence.（これから10年で、フェローが教える児童生徒は全員大学進学への準備ができ、自分の選択で（大学進学における）科目を勉強する。そして自律的かつ論理的な思考ができ、素晴らしいものを求めて努力できる。）”

■ 2017年格差のためにPuneフェローができること：

1. 100%のPuneフェローが、個人で児童生徒のために設定した目標を達成すること
2. フェローの教室が3年かそれ以上の学力差を埋める成果を、国家レベルの学力調査で発揮すること
3. 100%の10年生（高3）が、自身で選んだ大学から入学許可をもらうこと

7/30 授業力向上セッションの準備に関する事前課題（小学校フェロー）

30日には終日授業力向上セッションを行います。小学校のセッションでは笠原先生を中心に、日ごろの生徒指導と授業づくりについての振り返りと9月以降のスキル構築を行います。

上記実施にあたり、下記の1-2の課題にお取り組みください。

1. 7月までの取り組みに関する共有・提案：15分程度	地域研修（6/3）以降笠原先生からご指導いただいた授業スキルについて、ご自身の教室で実践したものがありましたら写真等を活用いただきぜひA4・1枚にまとめていただきご紹介をお願いいたします。7月27日（木）までに trainingandsupport@teachforjapan.org 宛にお送りください。27日までに間に合わない場合には、当日15部持参ください。 30日の午前中に発表いただきます（1人2-3分） 参考：通信「Respect」1～5号 ☆ 上記の中で紹介されている授業スキル： ・「学習のめあて」と「進め方」を授業開始10分以内に示すこと ・「はじめの10分（導入時）」の板書の工夫 ・「学習の進め方」の提示
2. 動画・板書写真（授業記録）の持参	30日午後には「授業を分析する視点を得る」ワークショップを行います。ここでは笠原先生に確認いただくモデル授業（4期生の授業）についての検討によって「授業を分析する視点」を学び、そのあと自分の授業について、持ち込んだ動画を見て、自身で検討し授業の改善を図ります。その際活用する授業の動画を、当日お持ちください。動画の内容は、1単位時間（45分）のもの。教室後方から、教師の動き、子どもの動き、音声がとれるものを想定しています。 別途、授業終了時の板書写真も持参ください。 なお、モデル授業以外の動画はご自分で分析するためのものですから、DVD等に焼くなど、PCに繋いで鑑賞できれば良いです。不明等ございます場合には trainingandsupport@teachforjapan.org までお知らせください

スケジュール

7/29（土） 振り返り～地域インパクト・団体ビジョン

時間	プログラム
9:30-10:00	チェックイン&1学期のリフレクション・研修の流れ&ゴール

10:00-12:00	児童生徒対応ワーク・ケース発表
12:00-13:00	昼食@九大学食
13:00-14:00	実践交流
14:05-16:45	地域理解・ビジョンワーク
16:45-17:45	団体ビジョン話し合い
17:45-18:00	散会・片づけ

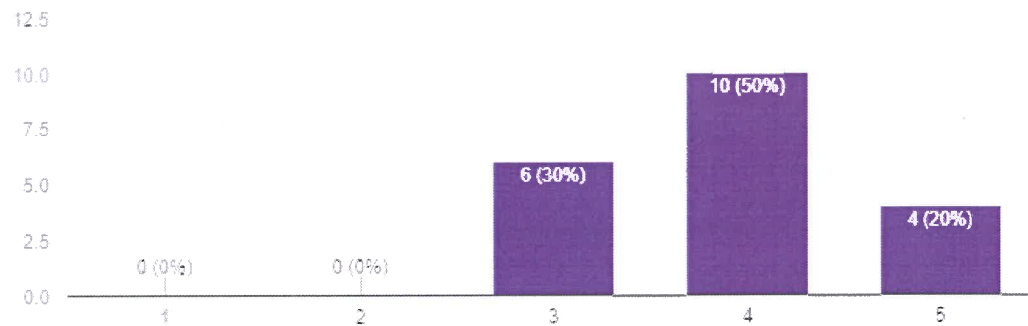
7/30（日） 授業力向上集中研修

時間帯	プログラム	
9:00-9:20	前日の学び共有・2日目から参加フェローの自己紹介	
9:20-9:45	研修の流れ&TAL～学級運営・授業づくりとTAL	
9:45-9:55	チェルシーさん実践紹介	
	小学校	中学校
10:00-11:30 校種別 セッション①	① 地域研修フォローアップ ② 授業を通して生徒とどう関わるか ～1学期の振り返り・生徒指導の基本 講師：笠原嘉治先生 会場：2F シリコンバレールーム	「授業の視点を増やす」ワークショップ 講師：横溝紳一郎先生 会場：1F 共通ゼミ室
11:30-13:00	昼食@九大学食	
13:00-17:00 校種別 セッション②	① 授業の視点を増やす ② 授業案or単元計画作成ワーク ショップ 講師：笠原嘉治先生 会場：同上	① 文法モデル授業 ② 文法指導ワークショップ 講師：田尻悟郎先生・横溝紳一郎先生 会場：同上
17:00-17:30	2日間の振り返り・9月以降に向けて	
17:30-18:00	散会・片づけ	

サーベイ結果：

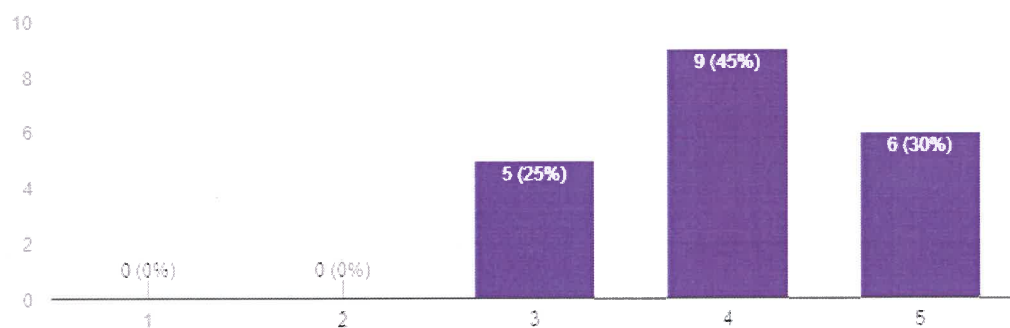
Day1セッションへの全体的な満足度

20 件の回答



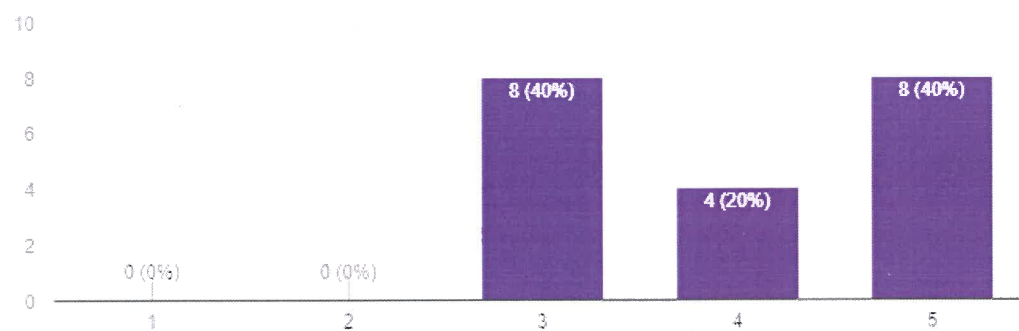
個別の満足度：児童生徒対応ワークショップ

20 件の回答



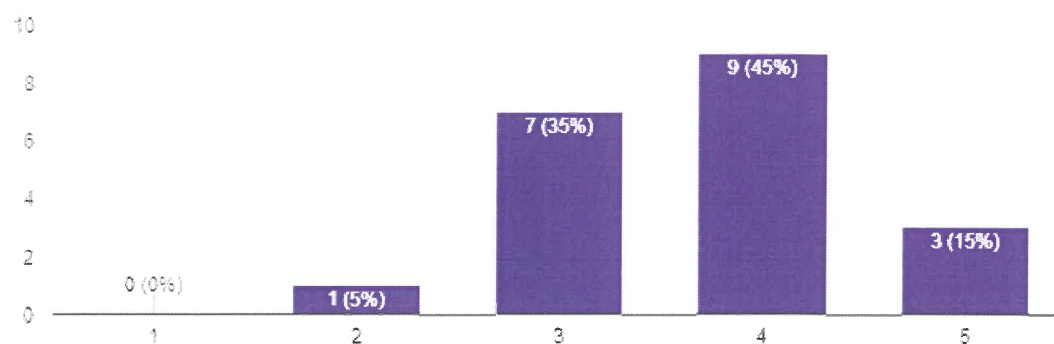
個別の満足度：地域インパクトワークショップ

20 件の回答



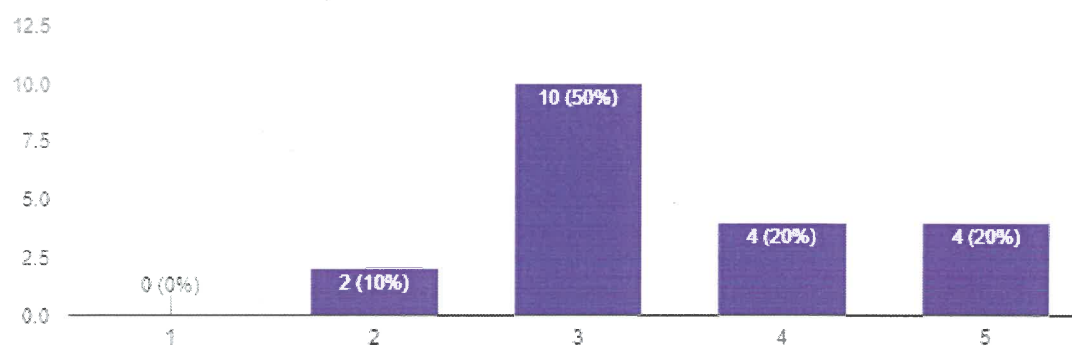
個別の満足度：フェロー実践交流

20 件の回答



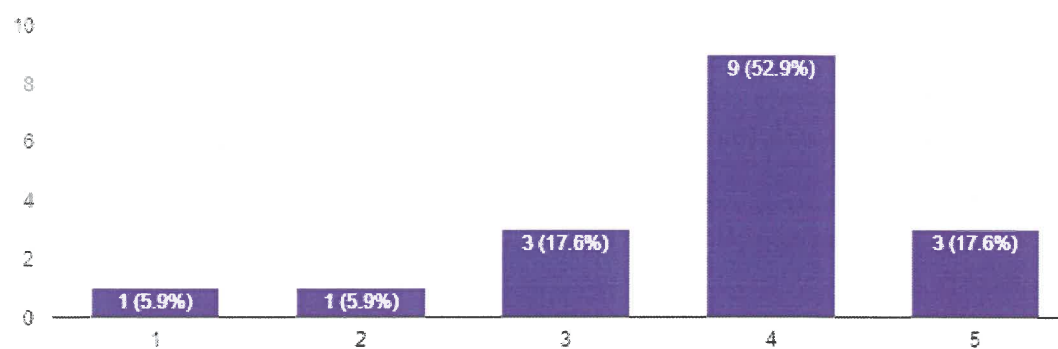
個別の満足度：団体ビジョン話し合い

20 件の回答



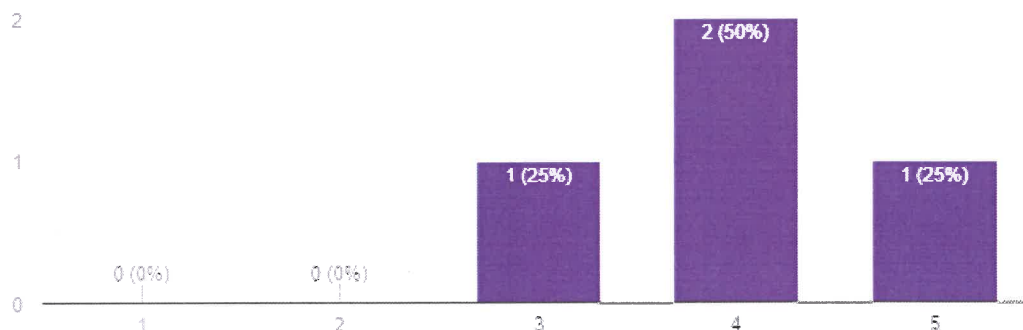
笠原先生セッション- 内容面での満足度

17 件の回答



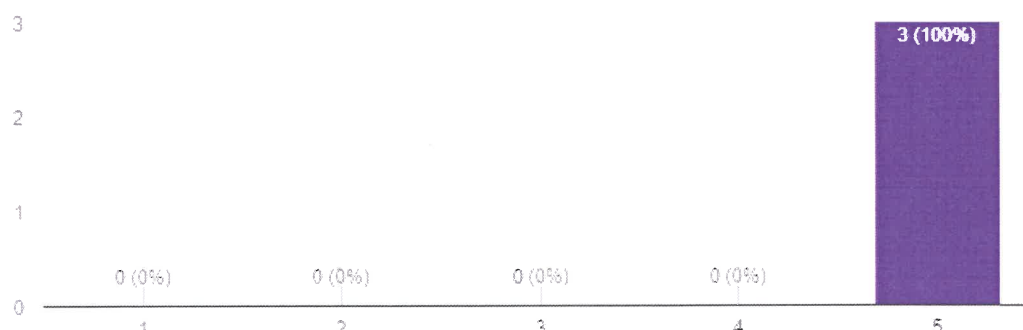
横溝先生セッション- 内容面での満足度

4件の回答



田尻先生セッション- 内容面での満足度

3件の回答



【冬期研修会】 日程：2017 年 12 月 23 日（土・祝）、12 月 24 日（日）
参加人数：20 名

事前準備：

生徒・地域インパクトセッションの準備に関する事前課題

23・24日終日の研修では、地域チームに分かれ、地域・教育に関する課題・ビジョンの進捗確認を行います。皆さんの貴重な実践から生まれる課題意識を深め、児童生徒や保護者ならびに地域施策からも振り返って実践を深めることを重要視しています。

夏季研修の課題・ビジョン特定に引き続いて本冬季研修は中間発表、2018年 SIを最終発表と位置付け、課題探究→実践のサイクルを回していきます。研修実施にあたり、下記の1・2の課題にお取り組みください。

1.（全員）ご自身の取組に関する振り返り：1-2時間程度	今年度（2017年8月以降）の取り組みについて、自身のビジョン・実践とビジョンに照らした生徒の成長（学力的な成果、非認知的な成果両方）について、グループ内での発表を行います（1人15分程度）。
------------------------------	--

	可能な範囲で、児童生徒の成長に関する具体的・統計的なデータを示してください。また具体的なエピソードも歓迎します。お忙しいと思いますが、簡単な説明資料（2-5ページ程度）の作成を推奨いたします
2.（任意）テーマに関する取組の発表準備：2-3時間程度	下記の地域活動やテーマ活動について、全体での発表を行います（1人30分程度）。 例 産学連携PBL、みんなのコード、クラス会議、地域企画 こちらは担当者にスタッフから適宜お声掛け・依頼させていただくとともに、もし上記のほかになにか発表したい取組がありましたらTSチーム（trainingandsupport@teachforjapan.org）までお知らせください。発表に際しては、簡単なプレゼン資料（10-20ページ程度）の作成をお願いいたします

スケジュール

12/23（土） Collective Impact～実践振り返り～リーダーシップ・アントレプレナーシップ
～地域&子どもインパクト進捗&成果共有

時間	プログラム
10:00-10:30	チェックイン&2学期のリフレクション・研修の流れ&ゴール
10:30-10:50	Collective Leadership：コンセプトの紹介
11:00-12:00	フェロー実践交流～夏休み明けの注力事項・子どもの成果
12:00-13:00	昼食
13:00-15:00	未来の教育とアントレプレナーシップ ～地域成長事業・スタートアップで活躍する志士と語る ・石丸 修平さま：福岡地域戦略推進協議会（Fukuoka D.C.）事務局長、飯塚市行政アドバイザー ・井上 翔一朗さま：株式会社フィランド代表取締役、元・英進館株式会社人事部（新卒採用・研修ご担当）
15:00-16:30	フェロー進捗・成果共有 児童生徒の成長・成果（学力/非認知能力向上等顕著な例）、 産学連携PBL、みんなのコード、クラス会議、その他
16:45-17:45	団体に関する進捗・話し合い
17:50-18:30	振り返り
18:30-19:00	散会・片づけ

12/24（日） アラムナイ進捗共有～コミットメント

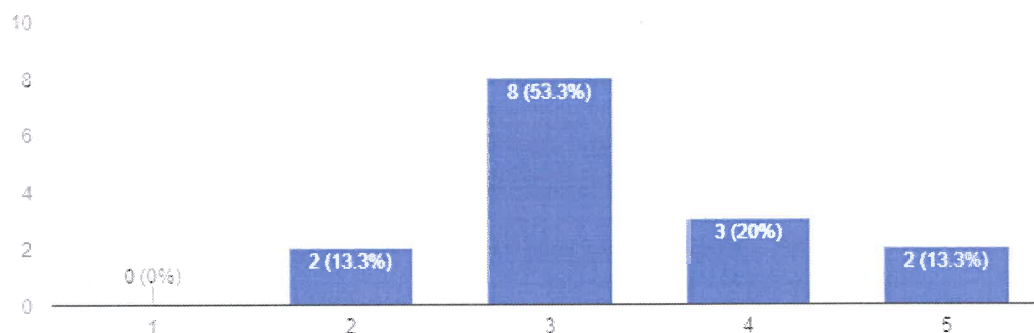
時間帯	プログラム
9:30-9:45	前日の学び共有・2日目から参加フェローの自己紹介

9:45-10:30	アントレプレナーシップ：Teach Forパートナーの活躍	
10:40-12:00	アラムナイ進捗・成果共有 イエナプラン・伝説のフェロー勉強会 ジグソー・道徳授業の工夫 他	
12:00-13:00	昼食	
	4期生	5期生＋アラムナイ
13:00-15:00 期別 セッション	来春に向けて：進路共有＋コミットメント発表に向けての準備	指導力フォローアップ： ビジョン＋実践振り返り＋Next Step
15:00-16:30	4期生フェロー発表：コミットメント・来春からの進路	
16:30-17:30	2日間の振り返り・1月以降に向けて	
17:30-18:00	散会・片づけ	

サーベイ結果：

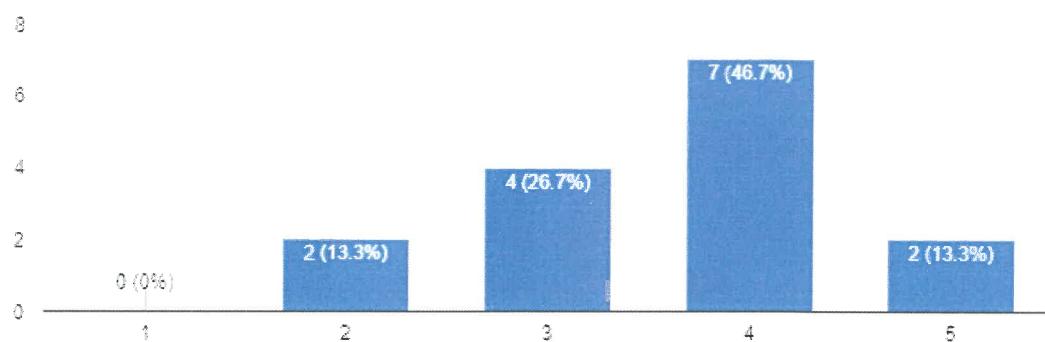
Collective Leadershipセッション：満足度

15件の回答



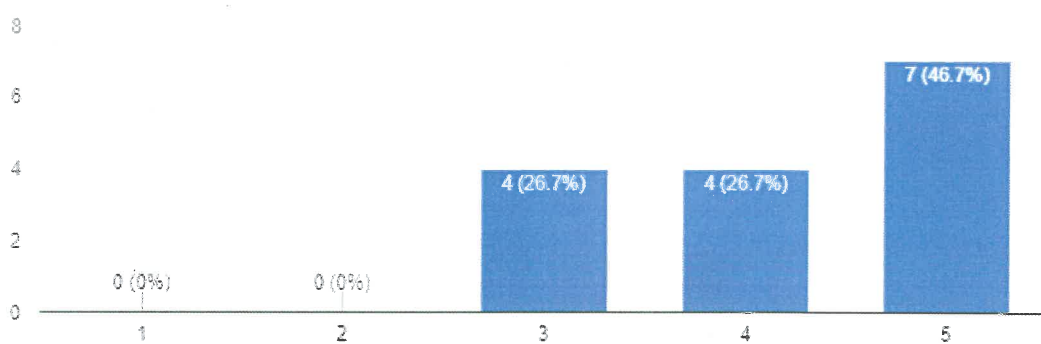
実践交流セッション：満足度

15 件の回答



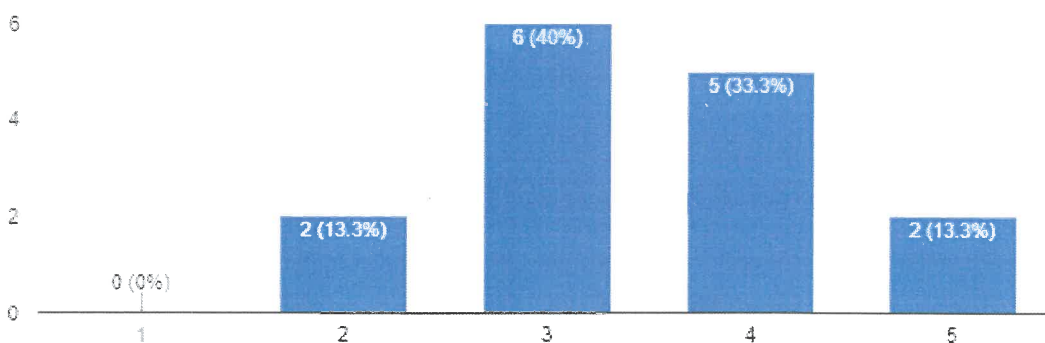
未来の教育とアントレプレナーシップセッション：満足度：全体

15 件の回答



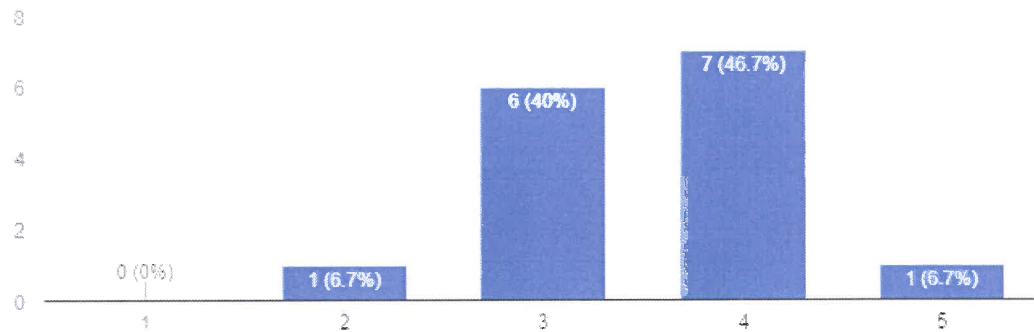
フェローテーマ別発表：満足度

15 件の回答



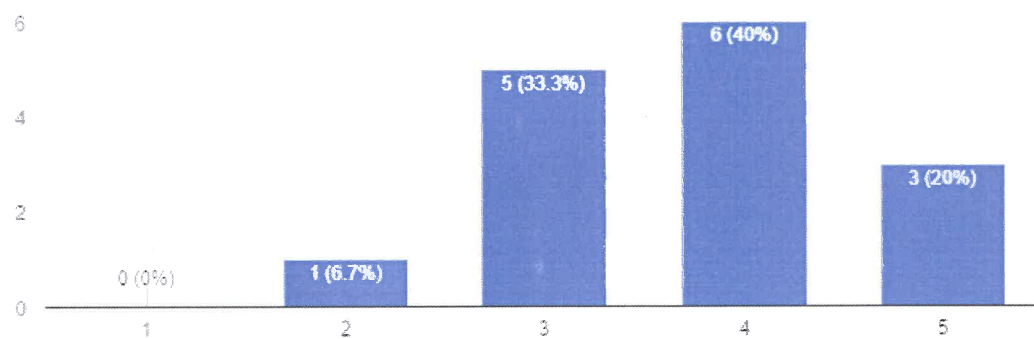
Day2セッションへの全体的な満足度

15件の回答



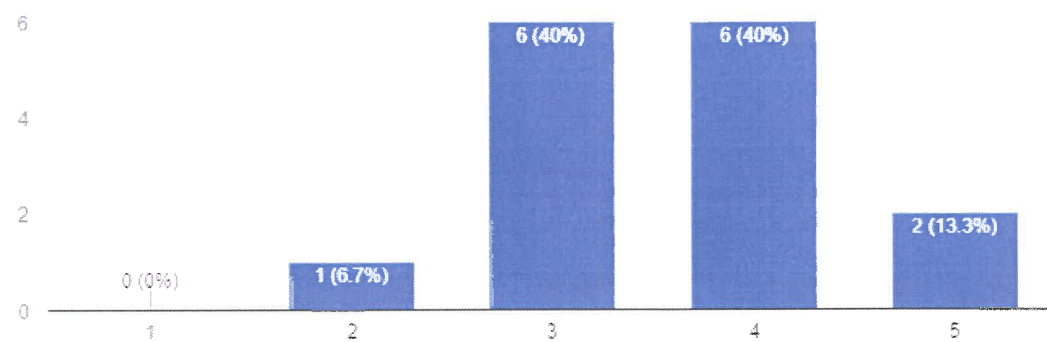
採用チームTIME：満足度

15件の回答



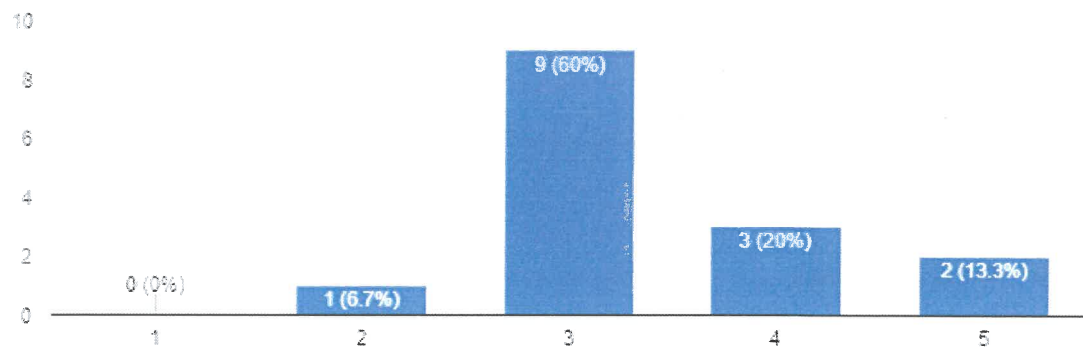
アラムナイ実践共有：満足度

15件の回答



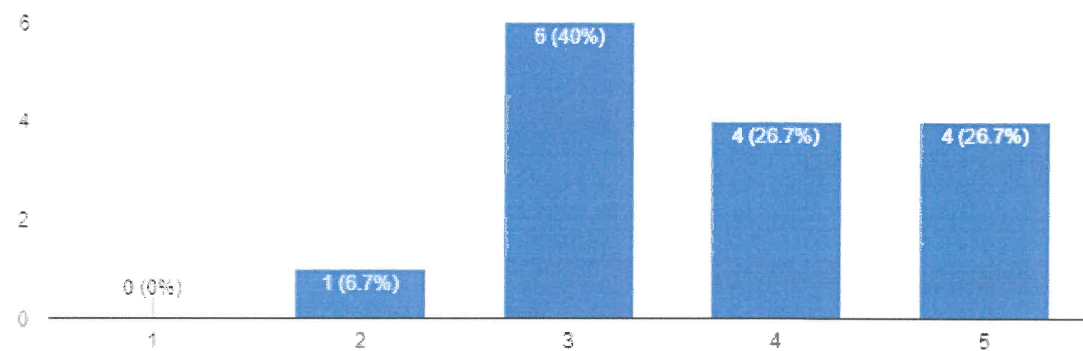
Alumni Impact セッション：満足度

15 件の回答



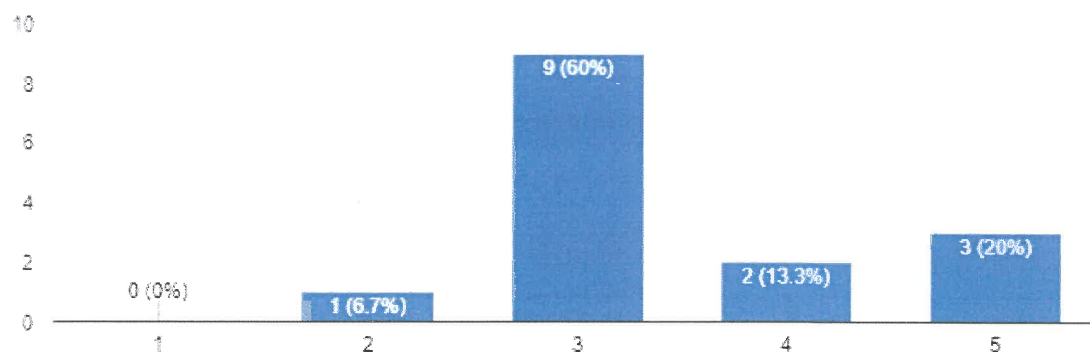
期別セッション：4期生全体話し合い／5期生グループトーク：満足度

15 件の回答



4期生 進路・コミットメント発表：満足度

15 件の回答



【ループリックを用いたフェローの授業観察・フィードバック・面談】

2017年4月訪問 8回
2017年5月訪問 10回
2017年6月訪問 8回
2017年7月訪問 3回
2017年9月訪問 15回
2017年10月訪問 2回
2017年11月訪問 3回
2017年12月訪問 2回
2018年1月訪問 5回

・フェローのチェックイン（面談）

2017年4月CI 23回
2017年5月CI 9回
2017年6月CI 10回
2017年7月CI 3回
2017年8月CI 25回
2017年9月CI 13回
2017年10月CI 7回
2017年11月CI 8回
2017年12月CI 7回
2018年1月CI 10回

III 連携による研修についての考察

（連携を推進・維持するための要点、連携により得られる利点、今後の課題等）

当法人は先生の派遣先の教育委員会との連携を推進している。該当教育委員会の指導主事や教育センターとの連携が強い教育委員会ほど、事案の対応スピードと質を高めることができる。今後、赴任前研修に教育センターの担当者や指導主事に参加してもらえる仕組みを構築していく必要があると考える。

赴任後研修についても教育委員会との連携を進めている。一つが研修の構築についてである。現場のニーズのヒアリングを実施し、研修を設計しており、教育委員会からの密な情報連携があるからこそ、ニーズに則した研修開発が可能となっている。また、現場の先生方にもご参加頂く事があり、現場の先生方からは内容については高い評価を頂いている。さらに、当法人のフェローが教育センターが開催している研修にも参加させて頂いており、当法人が開発しきれていないコンテンツの受講はとても意義深いとフェローからは聞いている。今後、互いの研修を受講しあい、ナレッジを共有することで、さらに連携を深めていきたいと考えている。

IV その他

【キーワード】 ループリック、Teach For America、公立小学校、公立中学校

【人数規模】 23人

[研修日数(回数)] . . . 4回

【問い合わせ先】

認定特定非営利活動法人 Teach For Japan

〒105-0004 東京都港区新橋6-18-3 中村ビル4階

TEL 03-6435-8031 (東京オフィス)